

八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略 グループヒアリングにおける意見と市の対応について

1. 実施対象及び実施日程

- ① 地域団体（八戸市連合町内会連絡協議会役員）（平成 27 年 8 月 24 日）
- ② 子育て世代（こどもはっち利用者）（平成 27 年 8 月 28 日）
- ③ 起業支援団体（アントレプレナー情報ステーション事務局）（平成 27 年 8 月 31 日）
- ④ 学生（八戸工業大学・八戸学院大学・八戸工業高等専門学校）（平成 27 年 8 月 31 日）
- ⑤ 市民活動団体（市民活動ポータルセンター登録の結婚支援・子育て支援団体）（平成 27 年 8 月 31 日）

2. 主な意見内容と市の対応

【基本目標 1 多様な就業機会を創出する】

No.	意見内容（概要）	市の対応
1	<ul style="list-style-type: none"> ・アントレプレナー情報ステーションについては、来年度以降、事業承継と創業に関する窓口を一本化するとともに、専門性の高い相談員を配置しながら、後継者に悩む事業者と創業希望者のマッチングを図っていきたい。 ・また、創業希望者をはじめとした多くの市民が気軽に利用できる施設へリニューアルし、ゼミや座談会の開催などを通じ創業者や創業希望者等のネットワークづくりを図りたいと考える。 ・将来的には本格的なインキュベーション施設の整備も視野に入れることも必要と考える。 （起業支援団体） 	<ul style="list-style-type: none"> ・アントレプレナー情報ステーションを中心に実施している創業に関する相談体制の強化を図るため、専属の相談員による創業相談や事業承継等の支援体制、創業希望者同士のネットワーク構築に関する仕組みなどについて、八戸商工会議所と連携しながら検討してまいります。 ・インキュベーション施設の整備については、(株)八戸インテリジェントプラザがその機能を有しているほか、民間事業者との競合も考えられることから引続き研究してまいります。 （商工政策課）
2	<ul style="list-style-type: none"> ・誘致企業の業種によって、関連産業の創業などの企業集積が進むこともあるため、創業と企業誘致を一体的に取り組むことも重要と考える。 （起業支援団体） 	<ul style="list-style-type: none"> ・誘致企業と関連する創業に対応した支援体制の構築を検討してまいります。 （商工政策課）
3	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚や出産に理解を示し女性の採用に積極的な企業を、市として認定する制度の導入など検討してはどうか。 （学生） 	<ul style="list-style-type: none"> ・国において、育児をする労働者が働きやすい雇用環境を整備する事業主を支援するための両立支援等助成金制度や、一定の基準を満たした企業を「子育てサポート企業」として国が認定する制度（くるみん）を設けております。 ・また、青森県においても「あおもりワーク・ライフ・バランス推進企業」登録事業や子育て応援わくわく店事業などにより、子育てや女性の活躍に積極的な企業の認定・登録・公表を行って

		<p>おります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市としては、こうした国・県の各種制度について、企業等に対し周知を図ってまいります。（雇用支援対策課）
--	--	--

【基本目標2 新しい人の流れをつくる】

No.	意見内容（概要）	市の対応
4	<ul style="list-style-type: none"> ・転勤族の方の多くは、八戸は雪も少なく病院等の施設も充実していて、大都市よりも住みやすいまちであると評価している。八戸への移住や若い世代の定住を促進するため、こうした魅力を発信していく必要がある。 <p style="text-align: right;">（市民活動団体）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県と県内40市町村で構成するあおもり移住・交流推進協議会の首都圏移住相談ブース「青森暮らしサポートセンター」との連携をより深めるとともに、定住自立圏連携事業として圏域移住パンフレットの作成や首都圏での移住セミナー開催等を通じ、移住に関する情報発信に積極的に取り組んでまいります。 <p style="text-align: right;">（政策推進課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当市の魅力を市内外に向けて戦略的に情報発信するため、シティプロモーションを推進してまいります。 <p style="text-align: right;">（広報統計課）</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・東京圏等で働く当市出身者のUターン促進を図るため、当市に残る親からの情報発信が有効であるなら、町内会・自治会として協力できる部分があると思う。 <p style="text-align: right;">（地域団体）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Uターンの促進を図るため、地域団体と連携を図りながら、Uターン情報の発信強化に努めてまいります。 <p style="text-align: right;">（雇用支援対策課）</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・当市にどのような誘致企業があるのかわからない学生が多い。認知度を高めるため、誘致企業の説明会を開催してみてはどうか。早い段階で市内の企業情報が得られれば、地元への就職者数が増えると思う。 ・当市には世界的に誇れる製品や技術を有する企業も立地しており、そうしたことを積極的にPRしていくことで将来を担う人材育成につながると思う。 <p style="text-align: right;">（学生）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種合同説明会の開催や学校訪問、大学と連携した講義の実施などにより、誘致企業の認知度向上に取り組んでおります。また、八戸産業立地ガイドブックの発行や経済情報誌への記事掲載、八戸市企業誘致促進協議会ホームページ等により、企業情報の発信に取り組んでおります。 ・企業の人材確保と求職者の早期就職を支援するため、情報提供サイト「はちのへジョブ市場」を開設しており、各企業の情報発信に活用いただいております。 <p style="text-align: right;">（雇用支援対策課）</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・進学により市外から来た学生は八戸のことを知らないことが多いため、市職員が市内の立地企業や観光に関する情報などを教えるセミナー等を実施してはどうか。 <p style="text-align: right;">（学生）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の皆様を対象とした、立地企業や観光に関するセミナー等の実施を検討してまいります。 <p style="text-align: right;">（政策推進課）</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館を整備していくとのことだが、 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館の有する機能については、今後

	<p>八戸出身の有名な画家もいるので、そういう人が活躍できる機能をもった施設にしてほしい。また、青森県立美術館のように自然に溶け込むよう郊外に整備してほしい。 (学生)</p>	<p>整備の検討を進める上で参考とさせていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 立地場所については、新たな用地取得やアクセス・公共交通網、はっちや公会堂などの既存公共施設との連携による相乗効果や中心市街地活性化の観点も踏まえながら検討してまいります。 (まちづくり文化推進室)
9	<ul style="list-style-type: none"> 一般に駅前がまちの顔という印象があるため、初めて八戸駅に来たとき小さいまちだと感じた。実際は中心市街地が離れたところにあるが、市外の人からすると分かりにくく誤った印象を与える可能性がある。 (学生) 	<ul style="list-style-type: none"> 八戸駅では、駅構内の総合観光プラザや東西自由通路にブースを設けている公共交通アテンダントから、中心市街地まで10分間隔でバスが運行していることを説明するなど、中心市街地の立地場所について案内を行っております。 (観光課) 市外からの来訪者が八戸駅から中心市街地へ迷わず来られるような対策を今後も検討してまいります。 (まちづくり文化推進室)
10	<ul style="list-style-type: none"> 八戸三社大祭や八戸えんぶりに県外の友人を招きたいが、平日開催のため日程の都合が難しい。開催日程の変更など時代に合わせて祭りも変わっていてもいいのではないか。 (子育て世代) 	<ul style="list-style-type: none"> 観光誘客の視点を考慮する一方で、国の重要無形民俗文化財に指定された神事であり、伝統と格式を受け継いでいかなければならない部分もあることから、開催日程も含めた祭りのあり方について、関係者と意見交換してまいります。 (観光課)
11	<ul style="list-style-type: none"> 八戸には美味しい海の幸をはじめ有望な観光資源があると思うが、そのことを知らない人が多いので情報発信を強化していくべきだと思う。 (学生) 	<ul style="list-style-type: none"> 八戸の観光資源の中では、特に「食」と「自然」について興味・関心が高いとの調査結果を踏まえ、これらのPRにつながる広告宣伝や、メディアを活用したPRに取り組んでおります。 (観光課)
12	<ul style="list-style-type: none"> 今春開催したクールジャパンセミナーに招いたアジアの学生の話では、日本の観光は世界にも有名だがそれは東京や京都などのことで、八戸市はもちろん青森県のこと知らない人が多いとのことだった。海外に目を向けた取組が必要であると思う。 (学生) 	<ul style="list-style-type: none"> 海外に向けた情報発信に当たっては、多様な魅力を発信することができるよう、道南と連携した青函圏や北東北など、より広域的な枠組の中での取組を進めてまいります。 (観光課)
13	<ul style="list-style-type: none"> 中国からの旅行者に八戸を訪れた理由を聞いたところ、インターネットで情報を入手したとのことだった。海外からの観光客を取り込むためには、インターネット等を活用した情報発信が有効だと思う。 (学生) 	<ul style="list-style-type: none"> 市の観光情報ウェブサイトは、日本語・英語ページとも、今年度刷新する予定です。なお、青森県や東北観光推進機構、観光庁の各ウェブサイトが多言語に対応しております。 (観光課)

【基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる】

No.	意見内容（概要）	市の対応
14	<ul style="list-style-type: none"> 未婚者が多いことは、各町内会・自治会共通の課題であり、将来的な集落の消滅の可能性や、地域の見守り体制など、様々な問題につながると考える。 結婚支援は、町内会・自治会加入率の向上や地域防災に加え、町内会・自治会が協力できることのひとつであり、賛同が得られる町内会・自治会からだけでも取組を始めるべきである。（地域団体） 	<ul style="list-style-type: none"> 市では現在、結婚支援に関する事業を検討しているところであり、事業の実施に当たっては、結婚を希望する方々に対する情報提供など、地域の皆様と連携してまいります。（子育て支援課）
15	<ul style="list-style-type: none"> 根城公民館で開講している青年学級では、未婚の青年男女を対象に様々な講座を開催しており、参加者が様々な活動を通じてお互いの人柄を知ることができ、結果として交際が始まることもあることから、結婚支援の取組のひとつの参考となるのではないかと。（市民活動団体） 	<ul style="list-style-type: none"> 市では現在、結婚支援に関する事業を検討しているところであり、青年学級などを参考にしながら、行政としてどのような支援が可能か検討してまいります。（子育て支援課）
16	<ul style="list-style-type: none"> 出産に関し、複数課にまたがっている手続窓口をワンストップ化してほしい。（子育て世代） 	<ul style="list-style-type: none"> 出産に伴う様々な手続きについて、市民の負担が軽減されるよう、関係課と連携してスムーズな案内を実施するとともに、分かりやすい説明と丁寧な対応など、サービス向上に努めてまいります。（健康増進課・こども未来課・子育て支援課）
17	<ul style="list-style-type: none"> 出産については、働く女性が、産休を取りやすい環境を整備するとともに、男性も家事・育児に主体的に参加する必要がある。（市民活動団体） 	<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画意識の啓発と男女が共に活躍できる職場環境の充実に向け、事業主をはじめ市民の皆様に対して、男女共同参画の必要性・重要性について啓発・周知を図ってまいります。（市民連携推進課）
18	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代の就労環境について、短時間労働を認める企業がもっと増えてくれるとよい。（子育て世代） 	<ul style="list-style-type: none"> 改正育児・介護休業法が平成24年7月1日から施行され、事業主は、3歳に満たない子どもを養育する従業員の希望に応じ、短時間勤務制度を設けることが義務付けられており、関係機関との連携により企業に対し制度の周知徹底を図ってまいります。（雇用支援対策課）
19	<ul style="list-style-type: none"> 働く子育て世代にとっては、小学校入学後の学童保育が手薄と感じる。また、幼稚園・保育園の卒園後、小学校入学後までの数日間が保育の空白となっている。（子育て世代） 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後児童クラブについては、国の運営指針や市のガイドラインで、「保育園との連続性を考慮し、4月1日から新一年生の受入を可能とする必要がある」とされており、一部では受入態勢が整っていないクラブもあるため、今後保育の空白期間の解消に努めてまいります。（子育て支援課）

20	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでに住んだ他自治体に比べ、当市の乳幼児等医療費助成の基準が厳しい。せめて小学生までを無償化し、所得制限についても撤廃してほしい。 (子育て世代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市では、青森県乳幼児はつらつ育成事業に基づき乳幼児等医療費給付事業を実施しており、給付事業における所得制限は、県事業で規定している所得制限額と同様の基準を適用しております。 ・ 子どもの医療費制度の拡充は、子育て世帯の経済的負担軽減や子どもの健康の保持増進等に効果が期待されるものと認識しておりますが、その実施には多額の費用負担が発生することから、財政状況や他の子育て関連施策との優先順位等を考慮しながら、今後の方向性を検討してまいります。 ・ なお、全国市長会を通じて、子どもが安心して医療が受けられるよう国による全国一律の制度の創設を要望しているところです。 (子育て支援課)
21	<ul style="list-style-type: none"> ・ 待機児童は無いものの、希望する保育園への入園ができない状況にある。 (子育て世代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当市では、定員割れしている地区が多数ある一方で、特定の保育所のみを希望して入所待ちしている状況が一部の地区で見られます。 ・ こうした状況を踏まえ、八戸市子ども・子育て支援事業計画に基づく提供区域ごとに保育ニーズと児童の受入状況を検証するとともに、八戸市子ども・子育て会議の意見を踏まえ、入所定員の増加や保育所等の整備により対応してまいります。 (こども未来課)
22	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども・子育て支援新制度の導入に伴い、現場は混乱していると聞くが、新制度によって、利用状況など何がどう変わったか、振り返ることが必要ではないか。 (子育て世代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新制度における保育サービス等の充実を図るため、子ども・子育て支援事業計画を策定したところであり、毎年度事業の実施状況について検証・評価し、課題の改善や事業の見直しを行いながら、子育て支援の充実に努めてまいります。 (こども未来課)
23	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てサロンは、就学前のお子さんとその保護者を対象に開催されており、母親同士の交流や子育てに関する悩みを相談できる場であるが、平日日中の開催の場合、働く母親は参加しづらいため、土日における開催も検討していく必要があると考える。 (市民活動団体) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てサロンと同様、子育て中の親子の交流や育児相談等ができる場として、市では、こどもはっちを開設しているほか、市内 15 か所の保育所等で地域子育て支援センターを開設しております。 ・ こどもはっちは 1 年を通して土・日曜日に開館しており、地域子育て支援センターには土曜日に利用できる場所もあります。 ・ 子育てサロンの開催日は、各サロンを

		運営する地域ボランティアにより決定されていることから、利用状況を検証しながら検討してまいります。 (こども未来課)
24	・子育てサロンの運営はボランティアで行っており、財政的に運営が厳しい状況にあり、市からのさらなる支援が必要である。また、継続的に運営していくための人材の育成や確保が必要である。 (市民活動団体)	・子育てサロン支援事業は、県の子育てメイト事業の廃止に伴い、平成19年度から市単独で補助を行っております。 ・子育てサロンに対し、今後さらにどのような支援をしていく必要があるか検討してまいります。(こども未来課)
25	・こどもはっちの一回の利用につき、3～4時間程度滞在するが、駐車場料金が高くなるため、駐車料金の割引制度があれば助かる。 (子育て世代)	・こどもはっちは、本体施設である八戸ポータルミュージアム「はっち」と同様、利用者用駐車場を併設していないため、利用者の皆様に対しては、公共交通機関又は近隣の駐車場の利用をお願いしております。(こども未来課)
26	・中心市街地に若い子育て世代が利用する店がほしい。ドラッグストアやスーパーなど、まちなかですべての用事を済ませられたらよい。また、座敷スペースを設けるなど、子供連れで利用しやすい飲食店が増えてほしい。 (子育て世代)	・来街者のニーズに応える商業機能の集積に向け、どのような取組が必要となるか検討してまいります。 (まちづくり文化推進室)
27	・八戸公園の屋内施設にエアコンが設置されておらず、暑い日は子供を外でも中でも遊ばせられなかった。 (子育て世代)	・八戸公園内の屋内施設には送風機を設置しましたが、エアコン等の設置については今後検討してまいります。また、屋外に日陰を作るためのシェルターを今年度設置する予定です。(公園緑地課)

【基本目標4 住み続けたいまちをかたちづくる】

No.	意見内容(概要)	市の対応
28	・町内会・自治会の活性化に向けては、活動をやめた時点で疲弊していくと考えられるため、地道な取組を続けていく必要がある。 (地域団体)	・現在、八戸市連合町内会連絡協議会と連携し、加入促進や組織強化に取り組んでおり、今後も同協議会の皆様と意見交換しながら、町内会等の活性化に向けた取組を進めてまいります。 (市民連携推進課)
29	・ベビーカーを利用していると、道路の段差が気になる。 (子育て世代)	・要望があった箇所やパトロールで発見した箇所について、引続き順次補修してまいります。 (道路維持課)
30	・市営バスの利便性向上のため、バスカードを利用できるようになるとよい。 (子育て世代)	・バスカード等の導入には、読取り機器の設置や販売・精算システムの構築が必要となり、多額の設置費用を要することから、費用対効果などを勘案の上、検討してまいります。(運輸管理課)